

学校図書館だより



2017年1月23日
 横浜市立森の台小学校
 校長 田中 公明
 図書主任 清水あゆみ
 学校司書 近江弥穂子

No. 9

今年は冬休みが明けてすぐに長縄週間が始まりました。長縄週間中は中休みに図書館を開館しないため、また、冬休み中に借りた本を返しに来る子たちもいて、昼休みの図書室は、多くの子どもたちで賑わっていました。図書室を楽しみにしている子が多くて嬉しく思っています。

冬は寒さのため、部屋の中で過ごすことも多いです。テレビやゲームもいいですが、ゆったりと本を読む時間を作ってほしいなと思います。たまには、家族そろって読書する時間を作ってみてはいかがでしょうか。

がっこうとしょうかん 学校図書館からのお知らせ

- 横浜市立図書館の本を沢山借りています。ていねいに扱い、なくしたり、破損したりしないよう大切にしてください。
- 本を書架のきまった場所にきちんと返しましょう。

せんせい ほん 先生のおすすめ本

稲村先生 (1-1)	高橋先生 (1-2)	鳥羽先生 (音楽)	高橋先生 (音楽)
「かみさまからのおくりもの」 ひぐちみちこ著	「ハリー・ポッターと呪いの子」 JKローリング他著	「ああ無情」 ヴィクトル・ユーゴー著	「フレデリック」 レオ・レオ二作
学校図書館に あります	学校図書館に あります	学校図書館に あります	学校図書館に あります

赤ちゃんが生まれるとき、神様は一人ひとりの赤ちゃんにおくりものをくださるそうです。自分に贈られたおくりものは何だろう？そのおくりものを十分発揮しているかな？と考えたくなる本。ぜひ読んでみてくださいね。

「ハリー・ポッターと死の秘宝」から19年後…大人になったハリーとその子ども、仲間たちの物語！！読んでいくと「この先どうなるの?!」と今までの作品と同じようにわくわくが止まりません！！登場人物の魅力もたっぷりです。私はスネイプが好きです。

先生が2年生の時、主人公のジャンバルジャンの気持ちの変化に感動して、何度も読んだ本です。みなさんもぜひ、読んでください。

のねずみのみんなが冬に備えて、とうもろこしや木の実を集めているのに、フレデリックだけはべつ…目をつむったり、景色を眺めたり…さぼっているではありません。光や色を集めているらしい…さあ、それを何に使うのかな?!「芸術」ってこういうことか!って考えさせられる一冊。

トピックス ～徳川家康（とくがわいえやす）～

三英傑の最後の一人である徳川家康は、松平広忠の嫡男として1542年に三河国で生まれました。幼名は竹千代です。家康は6歳で、松平家が臣下として仕えていた駿河国の今川氏に人質として送られ、その後12年間も人質生活を送ることになります。家康は最初に送られた駿府時代に今川氏の軍師であった太原雪斎より勉学の手ほどきを受けるなど、人質時代に学んだことは、彼の人間形成の上で、大きく役立ったと言われています。元服した後は今川氏の部将として活躍しましたが、1558年桶狭間の合戦で今川義元が討ち取られると、今川氏と袂を分かち、新たに織田信長と同盟を結びました（清洲同盟）。信長が本能寺で討たれた後は、その後継者である秀吉と対立しますが（1584年小牧・長久手の戦い）、後には和睦し秀吉の天下統一に協力します。小田原征伐後に関東に領地を移された家康は、武蔵国の江戸城を居城としました。家康は豊臣政権下では内大臣に任じられ、実力者として秀吉死後はその子秀頼の後見人となり、五大老筆頭として政治を任せられます。1600年に五奉行の石田三成などの反対勢力を関ヶ原の戦いで打ち破ると、1603年、朝廷から征夷大將軍に任じられ、江戸に幕府を開きました。その後、大坂城の豊臣家を滅ぼし（大坂冬の陣、大坂夏の陣）、名実共に天下人となります。江戸幕府は日本史にも類を見ない260年に渡る長期政権となり、応仁の乱以来の戦国時代の騒乱はここに終結します（元和偃武）。家康は死後、東照大権現として世界遺産で有名な日光東照宮に祀られています。

第一図書館に徳川家康の伝記があります。ぜひ読んでみてください。

今月のおすすめの本

「地球最強姉妹

キャンディ」

山本弘 文

「目がみえない耳もきこえない

でもほくはわらっている」

佐々木志穂 美術

「エパミナンダス」

愛蔵版おはなしのろうそく1

東京子ども図書館編

新しいパパに会いたくなくて、公園で遊んでいた知絵は怪盗アラジンの部下に誘拐されてしまう。車で逃走する犯人を追いかけてくる人なんていないと思いながら窓の外を見るとローラースケートで追いかけてくる女の子の姿が！この女の子こそ、新しいパパの娘で知絵の新しい妹タキ姫だった！とにかく面白いです。

ぼくは77000人に1人しか生まれないとっても重い病気だ。弟は二人とも自閉症。生きるのはちょっと大変だけれど、泣きたくない日もあるけれど、げらげら笑ってしまう日もある。冒険みたいな毎日なんだ。ひろしまけん じつわ 広島県の実話です。

この本に入っているお話は、東京子ども図書館の「おはなしのじかん」で、くりかえし語られたもの、そしてみんなが面白いと思ったものの中から選ばれています。いつとはわからないくらい古くから世界中で語り伝えられてきた昔話です。1人でも、お家の人と一緒にでもとにかく読んでみてください。

編集後記

冬休みが終わり、今年度もあと2か月ほどとなりました。図書委員会では今年度のしめくくりの活動として、「借りられていない本の紹介」「よく借りられた本のランキング」などを作成紹介していきます。それに伴い、今年度の貸出しのデータを抽出します。このようなデータを取ると貸出数に目が向きがちですが、むしろ注目すべきは借りられている本のなか身かと思えます。貸出数は年々増加してきましたが、同時によく借りられている本自体も変わってきています。学年ごとの傾向はあるものの、全体として、クイズや迷路、学習漫画などに替わり物語がランクインするようになり、また何か特定の本に集中するのではなく、学校図書館のいろんな本が借りられているようです。今回はどのような結果になるでしょうか。 学校司書 近江